



金燦心(キム・チャンシム)
始興市議会議員

始興市力選挙区
(大也洞、新川洞、銀杏洞、果林洞)

議員に選ばれたということは、必ず果たすべき義務と責任を与えられたことだと思います。ネットワークの軽い市議会議員となり、始興を必ずや心安らかに暮らせるまちにします。



尹泰鶴(ユン・テハク)
始興市議会議員

始興市力選挙区
(大也洞、新川洞、銀杏洞、果林洞)

子どもと女性が安全なまちづくりを目指して防犯カメラと非常ベルを追加で設置し、蘇萊園と正往園にも老人総合福祉館を建設してお年寄りが幸せな老後生活を送れるように力を尽くします。



文貞福(ムン・ジョンボク)
始興市議会議員

始興市力選挙区
(大也洞、新川洞、銀杏洞、果林洞)

unnecessary規制を緩和し、始興市民のためにより多くの雇用を創出できるように最善を尽くします。



趙元熙(チョ・ウォンヒ)
始興市議会議員

始興市ナ選挙区
(新岷洞、梅花洞、牧甘洞、蓮城洞、陵谷洞、長谷洞)

始興を人がたくさん訪れるまちにしたいと思います。「人事を尽くして天命を待つ」という言葉のように、どのようなことでも最善を尽くせばできないことはないと思います。始興の新しい変化と挑戦に最善を尽くします。



金泰景(キム・テギョン)
始興市議会議員

始興市ナ選挙区
(新岷洞、梅花洞、牧甘洞、蓮城洞、陵谷洞、長谷洞)

始興を芸術と文化が共存するまちにしたいと思います。文化的な欲求を満たして文化享受の機会を提供し、地域文化の活性化に力を尽くします。



金泳澈(キム・ヨン Chol)
始興市議会議員

始興市夕選挙区
(君子洞、正往本洞、正往1洞、月串洞)

覚醒した市民、考える市民が始興を幸せなまちにします。市民と共に幸せな始興の未来を築きます。



張在哲(チャン・ジェ Chol)
始興市議会議員

始興市夕選挙区
(君子洞、正往本洞、正往1洞、月串洞)

市民と対話してコミュニケーションを取りながら、市民が願う必要なことを一つひとつ実践していきます。



洪智榮(ホン・ジョン)
始興市議会議員

始興市夕選挙区
(君子洞、正往本洞、正往1洞、月串洞)

「始興の発展」という一つの目標に向かって邁進するように、という意味で選んでいただいたように思います。市民全体のための議会活動を行い、留まりたい始興、躍進する始興にしていきます。



洪源商(ホン・ウォンサン)
始興市議会議員

始興市夕選挙区
(正往2洞、正往3洞、正往4洞)

市民とコミュニケーションを取り、市民の声を聞く斬新な議員になれるように努力します。



朴善玉(パク・ソンオク)
始興市議会議員

始興市夕選挙区
(正往2洞、正往3洞、正往4洞)

本当に住みたい始興、温かい人情あふれる始興にしていけるように全力を尽くします。



孫玉順(ソン・オクソン)
始興市議会議員

比例代表

現場の感覚をつかんで専門性を備えた働き手になるために力を尽くします。女性団体の活動家が活動基盤を固められるように力を尽くし、ボランティアにも一定部分の特典が還元される体制を作ります。



李福姬(イ・ボクヒ)
始興市議会議員

比例代表

庶民にとってはいまだに高い行政の敷居を低くし、高齢者福祉のための条例を制定します。コミュニケーションを取り合って隣人を顧みる始興、人が優先される始興を市民と共に築きます。

フォーカス

始動した民選6期
始興市政を覗く

市(シ)民が興(フン) ずるまち、 始興(シフン)

2014年は始興市が「始興」と呼ばれるようになってから100周年を迎えた年。「100」は単なる数字にとどまらず、象徴性を持つことが多い。「百戦百勝・百寿百福」のように「完全と充足」という意味が込められている。同時に「新しい始まり」を意味する。7月に民選6期が始動した。始興100年の礎を築き、これからの新しい100年を準備すべき時である。始興市の力強い躍進を期待しながら、民選6期の方向性をまとめた。



生命が躍動する始興

自然がそのまま保たれている始興は生態系の宝庫。始興の干潟が湿地保護区域に指定され、戸曹原(ホジョボル)蓮花テーマパーク造成事業、都市パイオ農業の活性化によって始興は健康な生態系を維持している。一時はなおざりにされていたが、農業が未来産業の重要な軸であるように、生命都市・始興は人と自然の調和を基本としている。始興市民の暮らしが潤って持続可能な発展を遂げられるよう、すべての出発点を「生命」に置く。

始興のランドマーク、ペゴッ新都市

物貯水池から戸曹原を通して流れるポトン川、蓮花テーマパークとケッコル生態公園、月串浦口と鳥耳島につながる水の流れに沿

った生態軸の中心にある「ペゴッ新都市」が複合自足都市として開発される。

ペゴッ新都市の「ペゴッ」は「学ぶ場所」を意味する純韓国語で、日本統治時代に周時経(チュ・シギョン)先生が「教育」で国の礎を築くべく、ハングルを教えた「ハングルペゴッ」に由来する。

ペゴッ新都市は遠からずソウル大学始興キャンパスをはじめ、小中高を連携させたグローバル教育クラスターを形成し、グローバルな教育環境の都市となる。

周辺の開発地区とは違って地方自治体単独で行うため、上下水道や建築など諸般の許認可が速やかに進められている。民間事業者が投資する際も、速やかな行政手続きが可能で、事業者の要請にも柔軟な土地利用計画や地区単位計画で対応している。2013



成される。教育・医療・産業クラスター、業務・居住団地などが一ヶ所に集中することになる。始興の未来100年に向けて最初のボタンをかける重要な事業であり、都市発展の成否を見極める事業なだけに、開発過程で市民の意見を十分にまとめ、事業の成功に力を尽くす計画。

2018年の第1段階開校を目標に、ソウル大キャンパスは今年3月に事業協約を締結したのに続き、4月には地域特化事業者SPCの設立が完了し、今では本格的な実行段階にある。

教育革新を加速

始興の教育水準を一段階高めるための多角的な努力は、民選6期にも継続的に行われる。ソウル大学始興キャンパスの開校とソウル大学協力小中高校の新設、洞別青少年文化の家および陵谷洞青少年修練館の建設、青少年進路専門図書館および公教育支援センターの建設など、様々な領域にわたって教

育的な支援と革新が行われる。これによって教育のために訪れる「教育都市・始興」への変化を加速させる計画である。

温かい幸せの共同体、 始興を人情と思いやりあふれるまちに

始興市は人情味あふれる温かい都市を築くべく、様々な事業を推進する。「始興愛市民運動」で地域共同体を活性化し、「希望のまちづくり」事業で互いに心を開く都市を実現する。同時に「分かち合い共同体」によってボランティアと寄付文化を広める計画である。社会的公平性と弱者を思いやるバリアフリー（社会的に不利益を被りやすい人も安心できる社会環境を作るために障壁を崩そうという運動）シティを推進し、皆が「共に」生きていく都市にする計画。

年に試験団地が分譲され、2015年7月に予定されている入居時期に合わせた小中学校の開校を目指しており、周辺進入路とペゴッ生命公園、ハンウル公園を完成させるために努力している。

始興のブランドパワーを強化する

「ソウル大学始興国際キャンパス」

始興市は教育・医療・研究などの機能を併せ持つソウル大学始興国際キャンパス(以下「ソウル大キャンパス」)により、都市ブランドを集中的に強化する。総合病院や産学研究機関などが立地するソウル大キャンパスは、ソウル大生だけの学習空間ではなく、市民の教育、文化、医療、休息などの複合空間としても造



2014始興ケッコル祭り

潮汐流路の風、 そのままの愛

始興ケッコル(潮汐流路)祭り(以下「ケッコル祭り」)のモットーは、「一緒に交わること」である。今年で9年目を迎えるケッコル祭りは、これまで市民がコミュニケーションを取り合いながら参加する中でより充実したものとなった。市民が主人公になって一体感を醸成し、共感しながら一つとなる文化と都市、祭りにした。人と人、人と自然をつなぐケッコル祭り。その3日間の流れをお伝えする。



市民が一つになるケッコル祭り

2014ケッコル祭りはケッコル生態公園一帯で「潮汐流路の風、そのままの愛」というテーマで8月29日から31日まで開催される。祭りでは三目祭典をはじめ、自然の息づかいが感じられるケッコルギル(潮汐流路沿いの道)歩

き、塩田体験などの体験・展示プログラムや全国アコースティック音楽祭、芸術村の運営、潮汐流路写生大会など、様々なプログラムが行われる。生態学習として潮汐流路の風と星、葦を活用した体験プログラム、蓮料理フェスティバル、始興市潮汐流路昆虫展、障害者祭りなども多彩に開かれる。

ケッコル祭りは9年前、貴重な内湾潮汐流路の生態環境を守り、そこにある生態環境に文化を融合させて守っていこうという趣旨で始まった。他の祭りとは差別化された点は、祭りの主体が市民だということ。市民が直接参加して準備し、ストーリーを作る。その代表的な例が開幕・閉幕式に代わる「三目祭典」である。昨年取り入れた「魚形船」に続き、今年は三目魚神話を作って17洞の住民が参加しながら三目魚を製作し、祭り会場でパレードを行う。三目魚を通じて自然への感謝の気持ちを目覚めさせることから始まり、市民の願いが込められた三目魚を海に流して締め括る。その後、芝生で市民みんなの大合唱が行われ、感動のクライマックスを迎える。

何よりも、今回の祭りでは市民と愛郷者はもちろん、ネパールとパキスタンからの留学生、始興スマートハブの外国人労働者なども招待し、人種と国籍、年齢に関係なく交わる。チョン・ソクヨン祭り委員長は「ここで1ヶ月だけ滞在しても始興の人だと思う。また、始興が圏域別に分かれていて距離上、市民がなかなか集まらない面もあるが、今回の祭りが共感し合い、交わる場になればと思う」と述べた。

ケッコル祭り推進委員会チョン・ソクヨン委員長へのインタビュー

市民の作る祭りが本当の祭り

「ケッコル祭りはその出発から違います。すでに準備された場所に来て楽しむ他の祭りとは違い、ケッコル祭りは準備段階から市民が汗

を流しながら主導していくのです」

チョン委員長の説明である。彼は祭りに関するいくつかの持論を披露した。まず、祭りで一番の中心は市民だと言う。市民が楽しむこと自体が最高の文化商品であり、祭りの資源も結局は市民だということである。また、祭りを作り上げる市民精神は真摯な生命に根ざしていると説明した。潮汐流路がもたらす自然への感動、それも穏やかな感動を求めているため、潮汐流路という自然をもとに一緒に文化を作っていこうという認識が市民の間でも少し確固たるものになることを願うと語った。

「時々、ケッコル祭りは生態祭りだと誤解する人もいます。また、祭り客による自然環境の損傷など、環境問題を解決しなければならないという課題もあります。しかし、環境の価値を活用した文化の枠組みの中でそれを昇華させてみようとしています」

チョン委員長はまた、素朴で簡素な祭りを目指すと述べた。毎年足りない予算ながら増額を要求しないのも、そのような理由からである。お金をかける祭りではなく、祭り商品とプログラムを作り、むしろ地域経済に実際に役立つ祭りにしていくべきだという。

「祭りで人々が疲れを感じる要素はバツサリと切り捨てるのです。始興の代表的な祭りとして始興の都市資源と始興市民の心、地域色をよく生かしたそのままの信念通りに進めるのが、最高の価値を持つ祭りだと思います」



共同体の安寧と
繁栄を祈る
2014始興ケッコル祭り

三目祭典

いつの間にか2ヶ月後に迫った2014始興ケッコル祭り。祭りまであと60日ほど残ったが、すでに市民の間ではまた別の祭りが始まったかのよう。8月の祭りで洞ごとに競い合う6m以上の超大型三目魚を作るのに大わらわである。今年の始興ケッコル祭りはいったいどのように進められるのか、非常に興味深い。

「三目魚パレード」と「三目魚流し」で広がる楽しい想像

静かだった潮汐流路が、ひとしきりワクワク楽しい空間に変身する。

市民みんなを一つにする自然と生命への「感謝の祭祀」、はめを外して興ずる「遊びの場」になる「2014始興ケッコル祭り」が、ついに約60日後に迫った。

今年で9回目を迎える始興ケッコル祭りは、特別に説話の中の「三目魚(目が三つある魚)」が現実のものとなる一風変わった祭典として企画された。

祭り開幕の1ヶ月前から、始興の各洞共同体は始興ケッコル祭りに祭物として捧げる三目魚を作りながら、ケッコル祭りにのめり込んで



昨年魚形船パレードで一味違った祭りの幕を開けた祭り委員会は、今年は説話として言い伝えられてきた三つの目を持つ魚「三目魚」の物語でケッコル祭りを準備している。

いく。

三目魚は説話をもとに作られた想像上の生き物。共同体ごとに想像力を発揮して作られた6mを超える巨大な三目魚は、祭りの2日目に潮汐流路を華やかに彩りながら一斉に登場する。

当日会場を訪れる祭り客も、個人の願い事を込めた三目魚を作ってパレードに参加できる。開幕パレードから潮汐流路に三目魚を流す閉幕行事「送三祭典」まで、祭りは一貫した一つのストーリーとテーマでつながる。また、三目魚の入っている水槽にどの洞が一番たくさん水を入れられるかで勝敗が分かる送三祭典の対抗戦は、2014始興ケッコル祭りの参加者全員にダイナミックなパワーを感じさせてくれるだろう。

専門家と市民からなる「ケッコル祭り委員会」はこれまで、「ケッコル祭り」を市民が主人公の祭り、始興共同体の形成に一助となる「参加と和合の祭り」にするため、多角的な努力を注いできた。始興三目祭典はその精神を入れる小さな器であり、のどの渴きを解消する1粒の種である。

全体的な進行の流れは昨年の中心プログラムだった「魚形船パレード」と大きく違わないが、具体的な謂れと名前を持つ魚「三目魚」によって祭りのストーリーはもう少し差別化され、発展した。祭りは8月に始まるが、実際の祭りの始まりは今から。参加する人だけの特権を、みんな一緒に2014始興ケッコル祭りで味わっていただきたい。